

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



8月のアルミ概況及び9月の見通し (3)

予想レンジ		
LME現物後場買い	2,400-2,650ドル	●
スクラップ	+5~+10円	☀
	(前月最終価格より)	
為替	146~148円	円安
	(1か月間TTM)	

■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、7月の自動車生産台数は、前年比-7.8%の70万5,101台。輸出は、前年同月比-5.5%の34万54台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、8月の自動車販売台数(軽除く)は、前年比-10.6%の18万6,594台。

◆住宅着工戸数

7月の新設住宅着工は、持家、貸家、分譲住宅が減少したため、全体で前年同月比9.7%の減少となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比9.9%の増加となった。

◆輸 出

新地金	+71.7%	214 t
二次合金	-67.6%	820 t
スクラップ	-5%	2万8,314t
アルミ缶	-21.3%	6,058t

◆輸 入

新地金	-8.8%	9万1,925 t
二次合金	-11.5%	8万4,690 t
スクラップ	-25%	640 t
合金スクラップ	-22.1%	5,844 t

■見通し

◆自動車

7月の自動車生産が-7.8%。8月国内販売台数が前年比-10.6%。

販売台数：季節性による回復期待あり。ただし8月の大幅減の影響で、9月も前年同月比ではマイナス継続の見通し。

生産台数：米国向けの反動から持ち直しの可能性

あり。前月(7月)に比べてプラス転換する可能性が期待される。

◆アルミ圧延・押出品生産数

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前年比-1.5%の14万8,807 t。3か月連続マイナス。板は生産がプラス、出荷はマイナス。内需は「箔地」以外の主要分野が減少、半導体製造関連を含む「一般機械」「その他」も減少した。押出は生産、出荷ともにマイナス。主要分野の「建設向け」「自動車」ともに減少した。

◆アルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績

前年比 -4.6% 6万2,707 t 6か月連続マイナス
出 荷 -6.2% 6万2,116 t 12か月連続マイナス
生産・出荷ともに減少、特に出荷は12か月連続マイナス。

■スクラップ景況予想

世界的にアルミスクラップの需給は、非常にタイトな状態。特にEUは供給不足に対応するための政策を急ぎ、米国は高価格環境下でスクラップ活用を強化している。LME在庫の急落も、需給逼迫を示す重要な指標。

■LME・為替予想

●LME予想

LMEにおけるアルミ在庫は極端に減少し、2025年6月時点で32万トン前後と過去最低水準となっている。供給逼迫を強く示唆。

●為替予想：146円~148円

米国の経済指標や日米の金融政策の動向を背景にして146円から148円の範囲で推移する可能性が高い。

これらを踏まえた今月のアルミ価格は、2,400-2,650ドル(セツル)と予想。

スクラップ購入価格に関しては、+5から+10円上げを予想。

(「8月のアルミ概況及び9月の見通し」おわり)

銅・非鉄金属地金全般

株式会社 オカモト

代表取締役 岡本宜三

大阪府堺市美原区黒山 696

TEL 072-361-2264 fax 072-361-2265